

付録 III:用語集 (抜粋版)

編集者 :
Serge Planton (France)

本付録の引用時の表記方法 :

IPCC, 2013: Annex III: Glossary [Planton, S. (ed.)]. In: *Climate Change 2013: The Physical Science Basis. Contribution of Working Group I to the Fifth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change* [Stocker, T.F., D. Qin, G.-K. Plattner, M. Tignor, S.K. Allen, J. Boschung, A. Nauels, Y. Xia, V. Bex and P.M. Midgley (eds.)]. Cambridge University Press, Cambridge, United Kingdom and New York, NY, USA.

気象庁訳 (2014 年 9 月 30 日版)

注意

- ・ この資料は、IPCC 第 5 次評価報告書第 1 作業部会報告書 付録 3 用語集を、気象庁が抜粋して翻訳したものである。
- ・ 本翻訳は、IPCC ホームページに掲載されている報告書 (2014 年 1 月 30 日公開) http://www.climatechange2013.org/images/report/WG1AR5_AnnexIII_FINAL.pdf をもとにしている。
- ・ 公開後の訂正は、正誤表が IPCC ホームページに掲載される。気象庁は正誤表を随時翻訳し、本資料と同じホームページに掲載する。
- ・ 見出しは訳語の五十音順に並べ替えてある。

本用語集は、いくつかの特有の用語について、主執筆者が意図したように本レポート内で解釈するためにその意味を定義するものである。赤の斜体字は本用語集中で定義されていることを示す。

暑い日/暑い夜(Warm days/warm nights) 日中の最高気温、あるいは夜間の最低気温が90パーセントイルを上回った(【訳注】高い方から10%以内)日あるいは夜。ここで、それぞれの気温頻度分布は、通常1961～1990年の基準期間のデータで定義される。関連指標については、Box 2.4を参照。

活動層(Active layer) 永久凍土域における、永久凍土の上にある毎年融解と氷結が起こる地中の層。

気候の極端現象(Extreme climate event) *気象の極端現象*を参照。

気象の極端現象(Extreme weather event) 特定の地点と時期においてまれにしか起こらない極端な気象の現象。「まれ」の定義は様々であるが、通常観測結果から求められる確率密度関数の10パーセントイル以下あるいは90パーセントイル以上の少ない頻度である。定義によれば、極端な気象と呼ばれる現象の特徴は、絶対的な感覚では場所によって異なるかもしれない。極端な気象の状況がある期間(例えば季節)にわたって持続した場合、特に平均や合計した結果が極端である場合(例えば、季節にわたる干ばつや大雨)、気候の極端現象と分類する場合がある。

継続的な高温(Warm spell) 異常なほどに暑い天候の期間。関連指標については、Box 2.4を参照のこと。*熱波*も参照。

サーモカルスト(Thermokarst) 氷の多い永久凍土の融解や、大量の地中の氷の融解によって生じる特徴的な地形をもたらす過程。

寒い日/寒い夜(Cold days/cold nights) 日中の最高気温、あるいは夜間の最低気温が10パーセントイルを下回った(【訳注】低い方から10%以内)日あるいは夜。ここで、それぞれの気温頻度分布は、通常1961～1990年の基準期間のデータで定義される。関連指標については、Box 2.4を参照。

代表的濃度経路(Representative Concentration Pathways) 土地利用/土地被覆とともに、温室効果ガス、エアロゾル、化学的活性ガスの一式について、排出量と濃度の時系列データを含むシナリオ(Moss et al., 2008)。「代表的」という語は、それぞれのRCPシナリオが、特定の放射強制力の特徴をもたらす多くのシナリオのうちのほんの一つを提供している、ということの意味し

ている。「経路」という語は、長期的な濃度レベルばかりでなく、それをもたらすまでの時間の経過をも興味の対象としていることを強調している。

RCPシナリオは、通常、対応する排出シナリオに基づいて統合評価モデルによってつくられた濃度経路の2100年までの部分を指す。拡張濃度経路(ECP)シナリオは、関係者の協議によってつくられた単純なルールを用いて計算した、RCPシナリオを2100年から2500年まで延長させるものであり、完全に一貫したシナリオを表しているものではない。

統合評価モデルによってつくられた4つのRCPシナリオは、既刊の文献から選択されたもので、11章から14章までに示された気候の予報や予測の基礎として今回のIPCC評価報告書において用いられたものである。

RCP2.6シナリオ 2100年以前に放射強制力がおよそ 3 Wm^{-2} でピークに達し、その後減少する一つの濃度経路(対応するECPシナリオでは、2100年以降に排出量が一定になると仮定している)。

RCP4.5及びRCP6.0シナリオ 2100年以降に放射強制力がそれぞれおよそ 4.5 Wm^{-2} 、 6.0 Wm^{-2} で安定化する、二つの中程度のレベルへの安定化濃度経路(対応するECPシナリオでは、2150年以降に濃度が一定になると仮定している)。

RCP8.5シナリオ 放射強制力が2100年までに 8.5 Wm^{-2} 以上に達する、一つの高いレベルへの濃度経路で、その後もある程度の期間上昇を続ける(対応するECPシナリオでは、2100年以降は排出量が一定となり、2250年以降は濃度が一定になると仮定している)。

将来シナリオについての詳細については、Box 1.1を参照。

地表付近永久凍土(Near-surface permafrost) 気候モデルの応用事例においてしばしば参照される用語で、地面に近い(典型的には地面から3.5 mまでの)永久凍土を指す。モデル研究では、地表付近永久凍土は通常20年から30年にわたる気候の平均状態から診断されるもので、一般的な永久凍土の定義とは異なる。地表付近永久凍土が消滅しても、深層の凍土は長期的に存在し続ける。*活動層*、*凍土*、*サーモカルスト*も参照。

凍土(Frozen ground) 間隙水の一部あるいは全てが凍っている土壌あるいは岩塊。凍土は永久凍土も含む。毎年氷結と融解を繰り返す地面は季節凍土と呼ばれる。

熱波(Heat wave) 異常で不快なほどに暑い天候である期間。*継続的な高温*も参照。

パーセンタイル(Percentiles) 母集団の分布を(【訳補】小さい順に並べて)100 等分した値。50 パーセンタイルは母集団の中央値(メジアン)にあたる。

平衡線(Equilibrium line) ある時点(通常は、夏季の終わりの質量収支の季節変化が最小値になる時期)において、氷河の質量が年平均で正味に減少している領域(消耗域)と正味に増加している領域(涵養[かんよう]域)の境界を空間的に平均した線。この境界の標高は平衡線高度(ELA)と呼ばれる。

参考文献

Moss, R., et al., 2008: *Towards new scenarios for analysis of emissions, climate change, impacts and response strategies*. Intergovernmental Panel on Climate Change, Geneva, 132 pp.

AIII

【文書履歴】

2014年9月30日版（抜粋版; 気象庁ホームページ公開）